

平成28年度

学校評価総括評価表

徳島県立富岡西高等学校

◎ 1 確かな学力を身につけさせる (教務課・進路指導課)

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価				
		評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価		
確かな学力を身につけさせる。	(全校レベル) I) 学習指導の充実 II) 課外学習の充実 (分掌レベル) 1) 言語活動の充実を図りながら、指導方法を工夫・改善し、わかる授業、力をつける授業を実践する。	1) ① 1・2学期に相互授業参観週間を実施する。それぞれの期間で一人5回以上他の教員の授業を参観する。 ② 授業評価を10月に実施し、肯定的な評価を80%以上とする。その結果を10月以降の授業改善につなげる。	1) ① 1・2学期とも相互授業参観週間での授業参観に加え、初任者研修をはじめとする各種研修会における研究授業を参観することによりすべての教員が5回以上他の教員の授業を参観することができた。 ② 授業評価を10月に実施し、肯定的な評価が93.5%であった。	A	(評定) B (所見) 教員一人ひとりが授業力向上に対して、高い意識を持ち、積極的に取り組むことができている。 授業評価による生徒の意見を十分反映させながら、教員一人ひとりがわかりやすい授業展開ができるよう、積極的に取り組んでいる。	総合評価Bは妥当である。 評価指標については、概ね達成できており、成果も出せている。生徒に意欲をどのように持たせ、進路にどのように繋げていくのか、具体的な目標がほしい。 学校全体で生徒を伸ばしているというアピールをしてほしい。目に見えるところで、生徒が頑張っている姿を見せていくことで、外部からの評価も変わってくる。	○ 1・2学期ともすべての教員が5回以上授業参観できるように相互参観授業週間や初任者研修をはじめとする各種研修会の日程を調整する。 ○ 授業力向上に向け、授業力向上研修を計画・実施したり、教員一人ひとりが積極的に自己研修に取り組めるような働きかけをする。 ○ 難関大学を目指す生徒を育てるために低学年から難関大学を意識した集会を継続して案内をする必要がある。 ○ COMPASS実施後は、テスト前指導と不合格者に対する再テストの徹底などの粘り強い指導により、基礎学力指導の充実につながっているが、年間の実施回数を増やすことで更に基礎力定着の効果が期待できると考えられるが実施時期をよく考える必要がある。 ○ 土曜補習の満足度は高いが、参加者が減少している。募集にかかる条件を変更する必要がある。
	2) 理数科教育を充実させ、応用力や発展的な学力の育成を図る。	2) ① 理数科から難関大学の合格者をだす。 ② 1・2年次に対して難関大進学希望者集会を実施する。	2) ① 理数科から国公立大学や私立の難関大学の合格者が延べ 8人であった。 ② 難関大進学希望者集会を1年次は11月に、2年次は7月に実施した。	C	1・2年次の土曜補習と長期休業中の補習は普通の授業内容を補足・充実させるもので出席率も高い。また、3年次の早朝・8限目補習は希望者対象であるが、実施回数も多く、習熟別・分野別クラス分けになるので進路決定上での学力・意欲の向上に結びつけることができ、昨年に比較してより多くの生徒が長期間に渡り積極的に参加することができ満足度も高い。大学入試センター試験の校内平均点が全国平均点に届く科目が少ない。		
	3) 学習習慣の定着と基礎学力の向上を支援する。「朝学」を計画的に実施し、有効活用を図る。	3) ① 学習習慣の定着と基礎学力の向上を図るために「朝学」10分間を有効活用し、英数国で年間各5回COMPASSを実施する。 ② 朝学10分間を有効利用できるよう生徒一人一人に考えさせる。	3) ① 「朝学」でCOMPASSを国英数計画通り各5回実施した。 ② 「朝学」が基礎学力の補強と学習習慣の定着につながっていると考える生徒72.8%、保護者91.7%と満足度は高い。	B			
	4) 補習授業を充実させる。	4) ① 大学入試センター試験においては平均点以上の獲得を、また志望校に合格する学力をつけることを目指し補習を実施する。早朝補習と8限目補習、大学入試センター試験後に国公立大学の2次対策補習・私立大学一般入試対策補習を実施する。(3年次) ② 土曜日を活用した補習を希望者対象に2・3学期で11回実施する。(1・2年次) ③ 年度末考査終了後の12月に、進学予定者に学力対策講座Ⅰ・Ⅱを、就職等決定者には教養講座を実施する。(3年次)	4) ① 早朝補習では英数国から2教科の選択が可能で全部で30分×51回実施。(1クール11回,2クール12回,3クール14回,4クール14回)希望者対象。早朝補習の参加人数は、1クール昨年並み、2クールは3倍、3・4クールでは2倍の数の生徒が参加した。8限目補習は放課後に実施。2次私大対策補習は大学入試センター試験後に実施した。3年次の補習については、進路希望の変更に応じて生徒の出入りがあるが生徒の満足度は80.9%と高い。大学入試センター試験の全国平均点より本校受験者の平均点が上回った科目は以下の2科目であった。 現代社会 (57.41点<60.82点) 政治・経済 (63.01点<74点) ② 土曜補習は計画通り11回実施。出席率は 1年次:英語79.3% 数学87.1% 国80.0% 2年次:英語86.0% 数学77.7% 国86.1% 欠席理由の大半は、部活動の試合や行事参加によるものであった。 ③ 3年次の進学志望者234名に学力対策講座Ⅰ・Ⅱを、就職・実務系専門学校等への進路決定者18名に対して教養講座を計画通り実施した。	B			

	<p>④ 長期休業中の補習の出席率を90%以上とする。(1・2年次)</p>	<p>④ 補習の出席率 夏季 1年次：96.4%，2年次：94.9% 冬季 1年次：91.0%，2年次：90.4% 3年次選択希望補習全体平均出席率 夏季：84.4% 冬季：83.3% 1・2年次で夏冬の長期休業中補習について充実しており学力向上につながっていると考える。 生徒の満足度は66.7%，保護者の満足度は87.4%</p>			<p>○ 長期休業中の補習における生徒の満足度が70%を下回っている。補習内容を生徒にとって魅力あるものになるように検討していく必要がある。</p>
<p>5) アクティブラーニングやICT活用等、主体的な学習活動を促進して、高い志を持ち、一人一人が自らの在り方・生き方を考える生徒を育成する。</p>	<p>5) ① システム手帳を活用させる。</p> <p>② オープンキャンパスへの参加を促す。各年次60%程度の参加を目標とする。</p> <p>③ 徳島県が主催するハイレベルセミナー、牟岐町で行われるHLAB、京大連携事業等に積極的に参加させる。</p>	<p>5) ① 富西独自のスケジュール帳を用いて学習時間や生活時間の管理を行うことが学力の向上に役立っていると考えた生徒は1年次：47.7%，2年次：58.9%，3年次：68.7%，保護者：76.9%と経年で向上するので3年間を見通して指導する必要がある。</p> <p>② オープンキャンパスへの参加率は 1年次 50.0% (昨年度62.4%) 2年次 72.0% (昨年度64.3%) 3年次 65.4% (昨年度65.3%) 全体 62.7%</p> <p>③ 県主催の徳島ウインターキャンプ(ハイレベルセミナー)に2年次5名、1年次2名が参加した。 牟岐町英語HLABに2年次3名参加した。 京大連携事業として行われた京都大学サマースクールに1年次4名が参加した。</p>	<p>B</p> <p>3年間継続して校内手帳甲子園を開催することでスケジュール帳のよりよい使い方を啓発することができた。</p> <p>校内の学習活動以外にオープンキャンパスや大学主催のセミナー等多岐にわたって積極的に参加できるよう案内・勧誘することで進路に対する意欲と積極的な姿勢を育成することができた。</p>		
<p>6) 各教科等における言語活動を充実させる。</p>	<p>6) ① 各年次で小論文模試を実施する。</p> <p>② 入試でグループディスカッションや面接指導を必要とする生徒をとりまとめ計画的に対策実施する。</p>	<p>6) ① 1・2年次は年1回、3年次では4回の小論文模試を計画通り実施した。</p> <p>② 推薦入試や一般入試の面接やグループディスカッションの指導は担当者を決定して計画的に行った。</p>	<p>B</p>		
	<p>活動計画</p> <p>1) ① 1・2学期に相互授業参観週間を実施する。それぞれの期間で一人5回以上他の教員の授業を参観し、優れた部分は授業者に伝えるとともに、参観者が共有し、改善すべき部分は授業者に助言することにより教員一人ひとりの授業力向上を図る。</p> <p>② 10月に授業評価を実施する。授業評価の結果を各自が分析するとともに、教科会でも分析し、各自が授業改善に努め、教科会全体でも改善を図る。</p> <p>2) ① ・英語・数学・国語の授業を習熟度別に実施する。 ・教員が入試問題を分析し、レベルに応じた授業を実施できるように、休業中等を活用して研究セミナー等に参加できる機会を設ける。</p> <p>② 1年次は秋に、2年次は夏頃に難関大進学希望者集会を実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>1) ① 相互参観授業については、教科会、授業研究会の中で、あるいは個別に、優れた点を授業者に伝えられたり、参観者が共有したりすることができた。また、改善すべき点は授業者に助言することができ、少しずつではあるが、教員一人ひとりの授業力向上に役立った。</p> <p>② 肯定的な意見は昨年度に比べて、約0.1%向上した。次年度もすべての教科において、教科会等で授業評価の分析、検討を行い、生徒の意見を十分反映させながらより一層の授業力向上を目指し、生徒にとって、今年度以上にわかりやすい授業展開ができるよう努力したい。</p> <p>2) ① ・英語・数学・国語では、生徒の習熟度に応じた授業を実施した。 ・長期休業中を利用して、専門教科の研究セミナーや入試問題研究会等に参加した教員(学校を通して)は年間を通じて延べ8名である。習熟度別授業展開でクラスに応じた問題を扱う授業に活用した。</p> <p>② 1年は11月4日にベネッセの綾塚達郎氏、2年次は7月13日にベネッセの藤原真二郎氏に難関大進学希望者の講演をお願いした。各年次とも30名ほどの生徒が集まり進学意識の向上につながった。</p>			

<p>3) ① COMPASSの出題範囲・内容を基礎基本の確認に精選し、合格率80%以上を目指す。</p> <p>② 年次ごとに計画された小テストの実施やシステム手帳の記入など「朝学」を通して時間の有効な使い方を学ばせる。</p>	<p>3) ① COMPASS合格率(50点満点中30点以上が合格) 1年次全体 60.0%(昨年度76.1%) (国語52.0%, 数学71.3%, 英語56.8%) 2年次全体 68.4%(昨年度89.6%) (国語84.3%, 数学48.2%, 英語72.9%)</p> <p>② 「朝学」ではCOMPASSや教科の小テストを実施するほか、個人でスケジュール帳の記入を行うなど自学自習の落ち着いた時間を過ごすことができている。</p>
<p>4) ① ・早朝補習は英数国からの2教科選択制で4クールに分けて54回実施する。 ・8限目補習は理科、地歴・公民からの選択で火水木の放課後に実施する。 ・国立大学の2次対策補習・私立大学一般入試対策補習では現役合格を目指す。</p> <p>② 土曜日において、英数国から2教科選択制でレベルの高い内容や校外模試対策などテーマを絞って効果的な補習を実施する。</p> <p>③ 学力対策講座ではKバック(河合塾)・白バック(代ゼミ)を全10日間実施し、成績を校内処理する。並行して行う教養講座では外部講師を招聘して社会で必要な知識を身につけることのできる内容の講座を実施する。</p> <p>④ 夏冬の長期休業中に1・2年次は英数国の補習を、3年次には希望者を対象に、進学先に応じた入試対策補習を計画する。</p>	<p>4) ① 早朝補習において以下の通り参加した。 第1クール 延べ143名, 実人数81名 第2クール 延べ178名, 実人数110名 第3クール 延べ181名, 実人数113名 第4クール 延べ115名, 実人数72名 8限目補習は1・2学期火水木の放課後に希望者を対象として理・社の科目に分かれ32日実施した。 2次私大対策補習は大学入試センター試験後に22日間以上クラス・個別対応で進路志望に応じた補習を実施した。</p> <p>② 9月10日より1・2年次生の希望者144人(昨年度182人)に対し、英数国から2教科を選択させ11回の補習を実施した。(昨年度は11回)補習内容は、英数国の教科内で検討し、学習進度や実施時期に合わせた内容とした。土曜補習を活用している生徒の満足度は81.2%(昨年度は84.2%), 保護者の満足度は92.0%(昨年度は92.1%)</p> <p>③ 学力対策講座では白バック・Kバックのマーク試験を実施し、校内処理して翌日までに成績の返却をおこなった。教養講座では労働法規・金融関係・マナー・服装に関して外部から講師を呼んで社会で必要な知識が身に付く講座を実施した。期間:12月7日～12月20日。</p> <p>④ 1・2年次の長期休業中補習については、英数国の3教科で夏季9日間、冬季4日間実施した。3年次の希望者補習については進路希望の変更に応じて生徒の出入りがあるが早朝補習、8限目補習、2次私大対策補習など計画通りに実施した補習以外に小論文対策など個別対応の補習も数多く実施した。</p>
<p>5) ① 年次集会のメモ用や日々の生活・学習記録にシステム手帳を活用させる。文化祭を通じてシステム手帳の活用啓発を行う。</p> <p>② 夏季休業中のオープンキャンパスや体験入学への参加を促す情報を提供する。多くの生徒が志望する進路希望先を重点的に案内し、積極的に活動させることで自分の進路や将来をしっかりと考えさせる。</p> <p>③ 徳島県主催のハイレベルセミナーやHLAB、京大連携事業などへ積極的に参加するようにポスター掲示や声かけをしてよびかける。</p>	<p>5) ① 年次集会や講演会にメモとしてシステム手帳を持参させた。日々の記録と反省に手帳を活用させ、夏休み明けには第3回校内手帳甲子園を開催して手帳活用の啓発を行った。また校内の最優秀作品が全国手帳甲子園で活用部門において佳作に入賞した。</p> <p>② 夏季休業中のオープンキャンパス・体験入学の情報を随時提供し、掲示物も常時最新の情報が行き渡るようにした。進路を考える上で、情報を入手することと行動の重要性を広報した。</p> <p>③ 県主催の徳島ウインターキャンプ(ハイレベルセミナー)や牟岐町英語村HLABの他、京大連携事業に1・2年次生が多数参加した。</p>
<p>6) ① 1・2年次は年1回、3年次では4回小論文模試を計画し、自分の考えをまとめ整理し、人に伝える力を養う。</p> <p>② 推薦入試や一般入試でディスカッションや面接を必要とする生徒を把握し、計画的に指導が行えるように進路指導課でとりまとめる。</p>	<p>6) ① 1・2年次はホームルームの授業を活用し、3年次は希望者を対象に小論文模試を実施した。</p> <p>② 推薦入試や一般入試の面接やグループディスカッションの指導は生徒本人からの申し出により、担当者は全年次の教職員に協力をお願いして決定し計画的に指導を行った。</p>

◎ 2 生活指導の充実を図る (生徒指導課・環境情報課・教育相談課)

		自己評価			学校関係者	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		評価		
		評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価		
生活指導の充実を図る。	(全校レベル) I) 生徒指導の充実 II) 健康教育の充実 III) 教育相談の充実 (分掌レベル) 1) 基本的な生活習慣の育成に努める。 2) 規範意識を高め、社会人として通用するモラル・マナーを身につけさせる。 3) 生徒一人ひとりを大切に指導を通して、他者を思いやる心を育み、自尊感情を育てる。 4) いじめの早期発見、早期対応に努め、適切な指導を図る。 5) 「早寝、早起き、朝ご飯」を推奨し、生活習慣の改善を図る。 6) 生徒の悩みや相談に対応できるよう教育相談の体制を整え充実させる。	1) ① 常時指導を重視し全校集会や年次集会時に、頭髪・服装検査を実施するとともに、基本的な生活習慣の確立を図る。 ② 遅刻者を前年度より20%以上減少させる。 ③ 朝学習遅刻指導を強化する。	1) ① 常時指導や頭髪・服装検査を実施することにより違反者は少なくなった。 ② 遅刻者は前年比1年次9%増、2年次23%減、3年次で10%減、全体で12%減であった。 ③ 毎日、朝学習遅刻指導を実施し、巡回指導を行った。	B	(評定) B (所見) 評価指標関連については不十分な部分があった。 不審者等の報告は少なかったが、自転車による交通事故が依然として多い傾向にある。 安全で安心できる学校生活並びに登下校ができるよう交通マナーやルールの遵守について指導をしていきたい。 事故や問題行動に対しては教職員の協力体制により、管理職や関係教員・関係機関と連携の上迅速に対応できた。 さらに積極的な生徒指導に心がける。	総合評価Bは妥当である。	○ 正しく着こなすという意識は高まってきている。特に女子のスカートの着用指導を常時継続的に徹底して指導する。 ○ 特定の生徒が朝学習、本遅刻を繰り返した。保護者との連携を深め、意識の変革を促すための個別指導を強化していく。 ○ ツイッター等SNSの情報機器の使用マナーについての指導の強化を行う。 ○ 徳島県条例で、保険加入・整備点検・ヘルメット着用が努力義務として位置づけられたことを受け、交通マナーの向上や法令遵守の徹底を図るよう指導を行う。 ○ 校内での自転車の整理整頓・施錠は定着してきたが、阿南駅や地元の駅での駐輪マナーや社会人としての意識向上の指導が必要である。 ○ 関係機関と連携し交通安全教育を推進し交通事故の減少に努める。通学指導、駐輪指導を継続的に実施する。 ○ 不審者対応の指導を現実に即して積極的に行う。 ○ 本校の教育相談課・教育相談室があることを生徒に認識させ、個々にもつ悩みなどを気軽に相談できる場や体制があることを知らせる。
		2) ① 携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を開催する。 ② 交通事故防止に努め重大交通事故ゼロを目指す。(年間交通事故件数10件以内)	2) ① 1年次生を対象に実施し、啓発に努めた。 ② 重大交通事故は発生しなかったが、交通事故は17件発生した。前年度(14件)より増加した。	B			
		3) ① 面接週間を年間4回、特別面接週間を年間2回(6・10月)実施する。三者面談を年間1回実施する。 ② 道徳教育用教材の活用を推進する。	3) ① 予定通り個人面接を実施した。生徒理解や積極的な生徒指導・いじめの実態把握や防止に繋がった。 ② 道徳教材の活用については、改善の余地があった。	B			
		4) ① 常時指導を重視し、年次集会や全校集会で教育相談課、人権教育課等と連携しいじめ防止指導を行う。 ② いじめ防止基本方針に則りすべての教職員が連携し、「報告・連絡・相談」を図る。 ③ 年間3回学校生活アンケート(7・11・3月)を行い、生徒の実態を把握する。 ④ 年間4回の面接、2回の特別面接においていじめ防止の意識の高揚を図る。	4) ① 集会での生徒への啓発、防止指導を行った。他の課等との連携を徐々に深めることができた。 ② 各年次や担任と連携を図り、取り組むことができた。 ③ アンケートの分析から生徒の実態を把握できた。 ④ 4回の担任面接、2回の生徒指導課の特別面接を通じて実態を確認し、意識の高揚が図れた。	B			
		5) 保健だよりを適宜発行し、生活習慣の改善や健康の保持増進に関する情報提供を行う。	5) 保健だよりが生活習慣の改善に役立った生徒が56.9%であった。	B			
		6) ① 相談室を必要に応じて開放する。 ② 教育相談研修会を年間4回実施する。	6) ① 必要に応じた活用ができた。 ② 教育相談研修会を4回実施することにより、教員間での共通理解を図ることができた。	B			
		活動計画	活動計画の実施状況				
		1) ① 頭髪・服装検査(毎月)を実施する。 ② 毎週末、遅刻指導を実施する。 ③ 朝学習遅刻指導を毎日実施する。	1) ① 全校集会・年次集会時に頭髪・服装検査を実施した。 ② 毎週末、遅刻指導を個別に実施した。 ③ 毎日、朝学習指導を実施した。				
		2) ① 携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を開催する。 ② 全校生徒を対象に交通マナーアップ講話を実施する。 ③ 交通マナーアップ活動(生徒会・部活動で校門前のあいさつ運動・駐輪場の整頓・施錠の徹底)を実施する。 ④ 自転車・原付自転車の整備点検し整備不良車は再点検を実施する。(年2回)	2) ① 4月に携帯電話安全教室、11月に薬物乱用防止教室を実施した。 ② 4月に交通マナーアップ講話を実施した。 ③ 生徒会・全部活動が輪番で交通マナーアップ活動(あいさつ運動・駐輪場での整頓・施錠の呼びかけ)を実施した。 ④ 4・9月に点検週間を設け自転車・原付の整備点検を実施した。				

	<p>⑤ 毎月、学校安全の日に教職員による街頭通学指導を実施し、月～木に富西前交差点でも通学指導を実施する。</p> <p>⑥ 原付免許証取得者を対象に阿南自動車学校で実技講習会を実施する。</p>	<p>⑤ 毎月、学校安全の日に街頭通学指導(8:10～8:30)を実施し、月～木曜日に富西前交差点で通学指導(8:10～8:20)を実施した。</p> <p>⑥ 7月に阿南自動車学校で原付免許証取得者実技講習会を実施した。</p>			
	<p>3) ① 面接週間を4回、特別面接週間(6・10月)2回、三者面談を1回実施する。</p> <p>② 年次会で情報交換を行う。(随時)</p>	<p>3) ① 4・6・9・1月に担任による面接週間、6・10月に生徒指導課による特別面接を実施した。夏季休業中に三者面談を実施した。</p> <p>② 各年次会で情報交換を実施した。</p>			
	<p>4) ① 年次集会や全校集会を行う。教育相談課、人権教育課等と連携を図る。</p> <p>② すべての教職員が「報告・連絡・相談」の意識を強く持ち連携を図る。</p> <p>③ 年間3回学校生活アンケート(7・11・3月)を行う。</p> <p>④ 年間4回の面接、2回の特別面接を行う。</p>	<p>4) ① 必要に応じ教育相談課や人権教育課と連携した。</p> <p>② 担任、年次主任及び管理職と連携し、委員会や会議の中で連携し指導を決定した。</p> <p>③ いじめについて年間3回のアンケートを実施した。</p> <p>④ 年間4回の面接、2回の特別面接の中でいじめについての指導を取り入れた。</p>			
	<p>5) ① 保健だよりにより、生活習慣の改善に関する記事を組み、生徒の意識啓発を図る。</p>	<p>5) ① 保健だよりを定期的に発行し、健康への啓発を行った。</p>		保健だよりについては内容を精選し、発行の回数等も改善していきたい。	
	<p>6) ① 相談室を積極的に活用し、いつでも相談室を活用して相談にのる態勢であることを知らせる。</p> <p>② 生徒の共通理解を図るために、年間4回の教育相談研修会を実施する。</p>	<p>6) ① 担任を通じて啓発活動を実施した。</p> <p>② 外部講師を含め4回実施した。</p>		全員が登校できる体制を構築していきたい。	

◎ 3 豊かな人間性と社会性を培う (特別活動課・人権教育課・図書課)

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			
豊かな人間性と社会性を培い、「学び合い、高め合い、支え合う」集団をつくる。	(全校レベル) I) 特別活動の充実 II) 人権教育の充実 III) 読書活動の充実	評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価Bは妥当である。 評価指標は概ね達成できている。 人権コンサートなどを学校行事に取り入れてはどうか。音楽とともに人権の話も聞き入れやすい。 読書量を増やす啓発をしてほしい。小・中学での学習で新聞を使った授業に慣れてきているので、活字を読むことで読解力が伸びれば、学力の向上にも繋がる。	
	(分掌レベル) 1) 部活動、生徒会活動等を活性化し連帯感を持たせ、協同の精神や愛校心を育てる。	1) ① 部活動主将・部長会議を年間2回実施する。(必要に応じて適宜実施する) ② 各種研修会を年間2回実施する。	1) ① 特に開催の必要性がなかったので主将・部長会議は実施しなかった。 ② 各種委員会(4・10月)とホームルームリーダー研修会(5・10月)を実施した。10月のリーダー研修会は初めて室長のみで行った。責任感と意識の高揚に努めた。	B		(総合評価) B
	2) 学校行事や部活動等とおして、調和のとれた人間性を育成する。	2) ① 学校祭へ来校する一般者数を600人以上とする。 ② 学校祭をはじめとする学校行事の満足度は80%以上とする。 ③ 部活動への入部率を80%以上とする。	2) ① 3日間で995名で予定を上まわった。 ② 90%の満足度で達成できた。 ③ 入部率90%で達成できた。	A		(所見) 学校祭は、おおむね生徒、教員とも満足度が高い。しかし、引き続き内容に関して細かいところの改善の余地がある。 部活動の入部率は全体では高いが、掛け持ち生徒がいるので実際はこの数字より低くなる。 毎日の授業終了時刻が遅いため練習時間の確保が困難である。また、金曜日は唯一6限授業であるが、教員の会議が多いため十分な指導が出来ないのが現状である。
3) ボランティア活動等とおして、社会参加の意識を高め、奉仕の心を育む。	3) ホームルーム活動で、全学年ともクラスごとに学校周辺と桑野川河川敷の清掃ボランティアを実施する。	3) 学校全体で9割のクラスが実施した。しかし、何のためにするのかの意識が教員・生徒とも低いような気がする。	B		○ 学校祭は、おおむね生徒、教員とも満足度が高い。しかし、引き続き内容に関して細かいところで改善の余地がある。 ○ 文武両道でバランスよく生徒の能力を引き出し高めていく必要があるが、時間的制約や意識付けが不足しているため、高い志を持ち部活動に取り組む雰囲気を持つ生徒がほとんどいない。学校全体の士気を高めるためにも部活動の活性化が望まれる。 ○ 活動計画に、「始業前に、部活動の部員と生徒会役員で挨拶運動を恒常的に実施する。」を入れる。	

<p>4) 自らを尊重すると同時に他者を尊重し、人権に対する鋭い感性を磨き、常に相手の立場に立って考え行動することのできる人づくりをめざす。</p> <p>5) 日常生活の様々な機会をとおして、人権が尊重された環境づくりをめざす。</p> <p>6) 人権問題に積極的に取り組む実践的な態度の育成を図る。</p> <p>7) 読書活動の啓発を行い、読書の習慣化を図る。</p>	<p>4) ① 人権学習ホームルーム活動を年間6回実施する。</p> <p>② 教職員の人権学習ホームルーム活動事前研修を年間4回実施する。(5テーマ)</p> <p>③ 「富西人権の日」を月1回実施する。</p> <p>5) 人権に関する作品の作成をとおして、人権が尊重された環境について考える。</p> <p>6) 人権委員会や社会問題研究部による啓発活動を実施する。</p> <p>7) ① 「ライブラリーニュース」を定期的に年間8回以上発行する。</p> <p>② 年2回読書会を開催する。</p>	<p>4) ① 生徒の80%が、人権学習ホームルーム活動を通じて人権意識の高揚に努めていると回答している。</p> <p>② 事前研修を年4回実施することで、授業内容の充実を図ることができた。</p> <p>③ 月1回の「富西人権の日」では、様々な行事・企画を運営することができた。また、生徒の83%が、行事により人権意識の高揚に努めていると回答した。</p> <p>5) 作品づくりを通して、自己を振り返り、様々な人権問題について考えることができた。一部の作品は県や市のコンクールで好成績を収めた。(阿南市人権作文高校・高専部門 特選等)</p> <p>6) 「じんけん富西」の発行や富西祭での展示・身元調査お断りワッペン運動を行うなど、積極的に活動できた。また、校外での活動にも多数参加できた。</p> <p>7) ① 「ライブラリーニュース」を年間9回発行した。</p> <p>② 年2回読書会を実施した。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>人権学習ホームルーム活動や、富西人権の日の行事については、人権意識の高揚に努めていると評価した生徒が8割を超えた。しかし、生徒の主体的な活動やボランティア活動につながっていないので、さらなる努力が必要である。</p> <p>活動は計画通り実行できたが、「ライブラリーニュース」の存在が生徒の中で十分行き渡っていなかったようである。</p>	<p>○ 人権に関するホームルーム活動や学校の行事については、保護者・生徒・教員とも概ね満足度は高い。しかし、それらの行事が受身にとどまらず、自ら考え実践に移せる生徒の主体性を定着させられるよう、指導・支援をしていかなければならない。</p> <p>○ 「ライブラリーニュース」の展示方法を工夫するなど、広報活動に力を入れていきたい。</p>
<p>活動計画</p>		<p>活動計画の実施状況</p>			
<p>1) ① 部活動部長会議を(4月・10月)に実施する。また、必要に応じて開催する。</p> <p>② 各種専門委員会、ホームルームリーダー研修会を開催する。</p>		<p>1) ① 本年度は、特に開催の必要性がなかったので実施しなかった。</p> <p>② 各種委員会(4・10月)とホームルームリーダー研修会(5・10月)を実施した。10月のリーダー研修会は初めて室長のみで行った。責任感と意識の高揚に努めた。</p>			
<p>2) ① 学校祭を9月実施とし、一般公開する。</p> <p>② 各行事終了後にアンケートを実施し検証する。</p> <p>③ 4月と2月で入部率を調査・把握する。</p>		<p>2) ① 予定通り実施できた。</p> <p>② 楽しく充実しているが生徒90%、教員98%であった。</p> <p>③ 4月は90%、2月も90%で定着している。</p>			
<p>3) ① 各年次、年間に1回清掃ボランティアを実施。ゴミの回収から分別まで正確におこなう。</p>		<p>3) ① 2月末で、実施率約90%である。</p>			
<p>4) ① 人権学習ホームルーム活動を年間6回実施する。</p> <p>② 各年次で人権学習ホームルーム活動の事前研修会を行う。</p> <p>③ 「富西人権の日」の人権に関する行事を企画・運営する。</p>		<p>4) ① 人権学習ホームルーム活動を各年次年間6回ずつ行うことにより、人権意識の高揚に努めた。</p> <p>② 教職員の人権学習ホームルーム活動事前研修を年間4回実施することで、授業内容の充実を図ることができた。</p> <p>③ 月1回の「富西人権の日」では、様々な行事を企画・運営することができた。</p>			
<p>5) 人権に関する感想文・作文・標語・ポスター・作詞作曲・書道の作品作成に取り組む。</p>		<p>5) ① 人権に関する作品を作成することによって、自己を振り返り、様々な人権問題に関心を持つことができた。</p>			
<p>6) ① 人権委員会で「じんけん富西」を作成し発行する。</p> <p>② 人権委員会の富西祭での展示、社会問題研究部の自主研修を支援する。</p>		<p>6) ① 人権委員の意見や感想等を取り入れた「じんけん富西」を作成・発行できた。</p> <p>② 社会問題研究部員は1名しかいないが、有志が参加しての研修も多く、充実させることができた。人権委員会は富西祭での展示は行わなかったが、啓発活動で積極的な取り組みを見せた。</p>			
<p>7) ① 図書委員会で「ライブラリーニュース」を作成し発行する。</p> <p>② 図書委員を中心に読書会の企画・運営をする。</p>		<p>7) ① 図書委員会で推薦図書や行事案内を入れた「ライブラリーニュース」を作成・発行し、教室に掲示した。</p> <p>② 図書委員会で本を選定し、ポスターを掲示して参加を呼びかけた。委員長を中心に読書会を行った。</p>			

◎ 4 生徒一人ひとりの個性・能力を伸ばし、進路志望の実現を図る (進路指導課)

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価		
生徒一人ひとりの個性・能力を伸ばし、進路志望の実現を図る。	(全校レベル) I) 進路指導の充実 II) キャリア教育の推進	評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価
	(分掌レベル) 1) 生徒の能力、適性に応じた進路実現を図るため、きめ細かな指導を行う進路指導体制の充実を図る。	1) ① PTA総会午後の学級懇談用、各年次部会、三者面談等で各年次に必要な進路情報誌を提供する。 ② 進路情報誌『道』を発行する。 ③ 生徒対象と保護者対象に分けて各年次で進路講演会を実施する。 ④ 3年次の生徒を対象とした進路対策委員会を年間3回以上実施する。	1) ① 1・2年次の保護者には高校のガイダンス本や入試の概要がわかる冊子を、3年次の保護者には入試や進路の詳しい情報冊子を配布した。また、ホームルームや教職員に入試や進路に関する情報誌を適宜提供した。 ② 7月7日に『道』を発行した。7月14日に『道』を使った進路ホームルーム活動の特設実施した。 ③ 5月には1・2年次の生徒対象にフロムページキャリア教育担当の和田豊氏を招いてキャリア教育に関する講演会を、3年次の進学希望者にはベネッセの阿達茂孝氏の講演を、就職・公務員・一般専門学校進学希望者には専門の講師先生をお迎えして進路別ガイダンスを行った。 10月に1年次の生徒・保護者対象に河合塾の森脇雄一氏を、2年次は近畿大学入学センター高大連携課長の屋木清孝氏を招いて進路講演会を実施した。進路講演会と進路ガイダンスに関して生徒の満足度は86.1%、保護者の満足度は91.8%と大変高い。3月には1・2年次対象に志望系統別進路ガイダンスを実施する予定。 ④ 6月に就職・調査書関係の進路対策委員会を1回、7月に進路志望先検討会、1月に大学入試センター試験後の出願検討会として年間3回実施した。その他推薦に関する選考会などは複数回実施した。	B	(評定) B (所見) 計画通り本校の進路情報誌『道』の発行を行い、進路情報誌を各年次の生徒、教員に適宜提供できた。また、生徒・保護者対象の進路講演会において、講演の目的を明確にして講演内容を吟味した上で実施できたことはよかった。 特に2年次の総合的な学習の時間では、修学旅行で訪問する相手先との交渉やパワーポイントによる研究発表など、キャリア教育との関連も深く、取り組み次第で研究内容を深めることができた。また、周囲の人の理解と協力に支えられて活動がなされていることを意識させることができた。 全体として、授業ごとに担当者間で指導内容の共有を十分に図ることで、指導内容に差異が生じることがなかった。 2/28現在概ね自分の希望がかなったところに進路実現した生徒は88.4%である。現在の進路未決定者の動向も含めて不本意進路決定者に対しても進路希望を実現する細やかな進路指導が必要である。
	2) 計画性と体系性を持ったキャリア教育を展開する。望ましい職業観や勤労観を育成する。	2) ① 総合的な学習の時間のテーマ「社会探究」において ・1年次では課題を発見し、各自の研究テーマを見つける。 ・2年次では研究テーマに沿って自主研究を実施し、年間1回発表会を実施する。 ・3年次では志望理由書を作成し、併せて小論文を年間6テーマ以上実施し、表現力強化を目指す。 ② 1・2年次の生徒対象に自らの在り方生き方を考える講演を行う。	2) ① 1年次では所属する講座を決めて、自主研究のテーマの設定とテーマに応じた修学旅行の研修先の選定。依頼交渉を行い決定した。 2年次では自主研究発表を10月に実施し、発表後は自己の進路決定に役立てるため進路ノートを活用した。 3年次では計画通り実施した。 総合的な学習の時間における満足度は、1年次 83.1%、2年次 79.3%、3年次 78%、全生徒平均では80.1% 保護者は約91.3%、教職員は71.7% ② 5月には1・2年次の生徒対象にフロムページキャリア教育担当の和田豊氏を招いてキャリア教育に関する講演会を実施した。	B	○ 全年次で『道』を使った進路ホームルーム活動の特設実施する以外に、年次団ごとに、進路関係の旬の情報が伝わるようなホームルーム活動や掲示物の工夫を行い進路意識をより高める啓発活動を充実させたい。 ○ 進路講演会は、生徒や保護者に伝えたい内容をきちんと焦点化し、講師との事前協議を必ず行い、講演の目的を明確にして実施する。また、演者の選定は非常に重要であるが毎年同じ講演者であっても内容の充実度と引き続いた満足度によりお願いしたい。 ○ 総合的な学習の時間における満足度は全生徒平均では80.1%であるが、1年次 83.1%、2年次 79.3%、3年次 78%と年次が進むほど低くなる。特に3年次での指導内容について再考する必要がある。また、保護者の満足度は約91.3%と高い一方で、教職員は71.7%と最も低い。総合的な学習の時間では生徒の実態にあわせて指導の仕方を変えていく柔軟性が必要であるとともに、必要に応じて情報機器を活用させるなど授業環境に関しても考える必要がある。担当教員がクラスや年次担当と違う場合も含め指導しづらさがあるだけに担当者の事前準備と担当教員間での意思疎通が重要となる。

3) 確かな学力を育成し、第一希望の進路実現を図る。	3) 第一希望方面への合格を60%以上とする。	3) 3年次生のアンケート結果により第1志望の進路実現は約46.3%。第1志望でないが概ね自分の希望が叶ったところに進学した生徒は42.1%である。併せて88.4% (昨年約64.3%) である。現在の進路未決定者の動向も含めて不本意進路決定者に対するの細やかな進路指導が必要である。	B
	活動計画	活動計画の実施状況	
	<p>1) ① 逆引き辞典・進学ガイドブック等良質な内容の進学情報誌等を選択し生徒・保護者に提供する。</p> <p>② ・『道』を7月7日に発行する。 ・『道』を使った特設ホームルーム活動では担任から進路設計の指導を行い、先輩の軌跡から学ばせる。</p> <p>③ ・学部系統別進路ガイダンスを3月に実施する。(1・2年次) ・就職・公務員・実技系専門学校対象とその他進学する生徒に分かれての進路別講演会を5月に実施する。(3年次)</p> <p>④ 進路対策委員会に必要な資料を作成する。</p>	<p>1) ① 逆引き辞典・進学ガイドブックなどの進路情報冊子を履修科目の選択決定や進路理解を深めるために随時提供した。</p> <p>② 7月14日に『道』を使った進路ホームルーム活動の特設した。『道』から先輩の進路の軌跡の説明を受け、自分の進路を考えさせた。</p> <p>③ 県内外の大学から外部講師を招き、志望系統別に進路ガイダンスを実施し、望ましい職業観の確立や学部・学科の研究を行った。 3年次は5月に大学・短大進学志望者に向けてベネッセの阿達茂孝氏の講演を実施し、就職・公務員・専門学校等志望者には関係の講師を招き進路別集会を行った。</p> <p>④ スタディーサポートの結果や模擬試験の集計結果を用いて進路対策委員会に必要な資料を作成した。</p>	
<p>2) ① 進路設計についてのテーマに沿った学習を実施する。各年次でテーマを決定し、進路ノート等を使って進路指導を実施する。 1年次：望ましい職業観 2年次：学部学科の研究 3年次：受験までのスケジュール、志望理由、面接、教科別受験対策 など</p> <p>② 「キャリア」への意識を高める講演を行う。</p>	<p>2) ① 1年次前半は各教科から「高校の学びを知る」として、「学び」の内容と職業や学問など社会との関わりについて講義した。後半は進路ノートを活用して、社会・職業・学問を柱として進路を知り興味関心を深め課題研究の準備を行った。 2年次前半は講座別の活動を通して、各講座内グループが個別にテーマを設定して調査研究を行い、発表した。選抜発表の中から優秀な研究に対して校内で賞を与えた。発表後は、社会・職業・学問を柱に、進路についての知識を深め、3年次への準備を進めた。3年次では志望理由書を5回、小論文を5回実施した。</p> <p>② 5月には1・2年次の生徒対象にフロムページキャリア教育担当和田豊氏を招いて多年カレンダーを用いたキャリアデザインについての講演を実施した。</p>		
3) ・「チーム富西」として全員の先生方に3年次生の進路指導の協力をお願いする。 ・3年次以外の教員にも進路情報等の提供を積極的に行う。	3) A0入試、推薦入試にはじまり一般入試まで教科指導・口頭試問・小論文・面接・討論等において「チーム富西」として全職員の先生方に指導の協力を得た。		

◎ 5 環境教育・防災教育を推進する (環境情報課)

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		
環境教育・防災教育を推進する。	(全校レベル) I) 環境教育の充実 II) 防災教育の充実	評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価Bは妥当である。
				総合評価 (評定) B	

(分掌レベル) 1) 校内外の環境美化活動を推進し、公共心や奉仕の精神の育成を図る。 2) 防災クラブの活動を活性化し、防災リーダーの育成に努める。	1) ① 清掃に真面目に取り組んでいると考える生徒が70%以上とする。 ② 校外清掃ボランティアを年間10回以上実施する。(参加生徒延べ人数130名以上とする)	1) ① 真面目に取り組めたという生徒の割合が63.4%であった。 ② 各学期に1回阿南駅周辺清掃(40名)、バス停清掃2回(10名)、清掃ボランティアによる学校周辺清掃5回(63名) 合計10回113名	B	(所見) 防災に関しては、本年度は本校より「高校生防災士」に5名の生徒が合格した。 防災訓練で講演会や高校生防災士のプレゼンテーションと体験発表を行い、防災意識の高揚を図った。 また本年も、近隣の保育所との合同避難訓練を行うことができ、防災クラブ・家庭クラブ役員が子どもたちの避難誘導を行った。園児の防災頭巾は家庭クラブが製作し贈呈したものである。	評価指標は概ね達成できている。 震災等が起きた場合の準備を怠らないようにしてほしい。食料の備蓄や、生徒と保護者との連絡手段の確保等、防災とともに避難拠点としての役割も必要である。	○ 清掃について全校集会で呼びかける。 ○ 来年度も防災クラブに活動費が下りれば、教室の窓ガラスに飛散防止のフィルムを貼る予定である。 ○ 高校生防災士をできる限り増員できればと考えている。
	2) ① 年間10日以上、防災クラブの活動をおこなう。 ② 防災に関する研修を年3回以上実施する。	2) ① 学校祭での防災展示、研修会の参加、飛散防止フィルムの貼付、防災プレゼンテーション・防災士体験発表の準備を含めて10日以上活動できた。 ② 2学期に、被災された方をお招きし、講演会を行い被災の様子を実感できた。				
	活動計画 1) ① 校内の清掃活動を全員が時間いっぱい取り組むよう徹底する。 ② 環境委員・部活動代表者対象にごみ分別教室を実施する。 2) ① 防災クラブを中心に近隣の高齢者宅を訪問し、転倒防止器具の設置や避難済みを知らせるカードを配布する。 ② 地域の保育園児の避難誘導を、防災クラブ中心に高校生が支援できるようにする。 ③ 津波に備えて校舎の3・4Fに避難する訓練を実施する。大津波の場合は、高台(校舎の南の山)へ避難することを周知徹底する。	活動計画の実施状況 1) ① 環境委員により、しっかり取り組むよう生徒へ周知したが、徹底できていなかった。 ② 環境委員と厚生委員を集め、ゴミの分別の方法と徹底を周知した。 2) ① 3月に予定している。 ② 3学期の避難訓練において、近隣の保育所の園児たちと合同の避難訓練を実施し、共助の必要性を実感することができた。 ③ 津波を想定した避難訓練は、1学期に実施し、3・4Fへ避難することができた。				

◎ 6 開かれた学校づくり (教務課・環境情報課・特別活動課・総務課)

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		
生徒・保護者・地域から信頼される開かれた学校づくりに努める。	(全校レベル) I) 積極的な広報活動を行う。 II) 開かれた学校づくりを推進する。	評価指標 1) ① 中学生体験入学は、実施内容を改善し、アピール度の向上を図る。参加者は500名以上、参加者の80%以上が肯定的な感想を持つ内容とする。 ② 学校公開の参加者は120名以上とする。 ③ 地域説明会は5ヵ所で行い、合計の参加者は200名以上とする。 ④ 各中学校、年間2回以上訪問を行う。	評価指標の達成度 評価 総合評価 (評定) B (所見) ①参加者(中学生)は昨年度に比べて、120名の大幅増となった。肯定的な感想を持つ生徒比率も昨年度とほぼ同じであった。 ②昨年度に比べて、44名の減となったが、そのほとんどが本校在籍生徒の保護者であり、中学校関係者の参加者数は昨年度とほぼ同数であった。 ③目標を達成できた。 ④目標を達成できた。	総合評価Bは妥当である。 評価指標は概ね達成できている。 ホームページはとても見やすくできているので、学校行事や部活動等の事後報告だけでなく、広報や啓発についても取り組んでほしい。	○ 1)の①～③については、参加者アンケートの要望等を分析し、より魅力ある内容に改善していきたい。 ○ 環境情報課・総務課が連携をとり、PTA・牛岐同窓会のページ、緊急連絡用ホームページをさらに充実させる。
	(分掌レベル) 1) 中学生体験入学、学校公開、地域説明会等を行い、積極的な広報活動を行う。 2) ホームページの充実を図る。	2) ① ホームページの更新を年間200回以上行う。	2) ① ホームページの更新回数は250回以上(1月末)であった。また、学校生活の様子などについて、迅速な情報更新を行うことができた。		

	<p>3) 学校評価と学校関係者評価を実施し、よりよい学校づくりに努める。</p> <p>4) P T A 役員会、牛岐同窓会役員会等で積極的な意見交換を行う。</p>	<p>② 生徒が利用しやすい内容の掲載を考える。</p> <p>③ P T A ・同窓会のページを充実させる。</p> <p>3) 教職員による学校評価推進委員会を適宜開催する。また、3月中旬には学校評議員を招いて学校関係者評価を実施する。</p> <p>4) ① P T A 役員会を年4回実施する。各支部からの少なくとも1名以上の参加者を目指す。</p> <p>② 牛岐同窓会総会を8月に実施し、参加者を70名以上とする。</p> <p>活動計画</p> <p>1) ① 中学生体験入学では在籍生徒を主体的に活用するなど、より魅力的なものになるよう改善する。</p> <p>② 学校公開を10/16(日)に実施することで多くの人が参加しやすいようにする。</p> <p>③ 阿南・羽ノ浦・小松島・丹生谷・美波地区で本校の教育活動等について説明する。</p> <p>④ 勝浦中学校・小松島中学校から日和佐中学校・木頭中学校間にある中学校を訪問する。</p> <p>2) ① 更新担当者数を増やし、各課ごとに掲載記事を準備する等のホームページ運営組織を確立していく。</p> <p>② 各課と相談して生徒に必要な情報は何かを検討し在籍生徒も利用しやすい情報の掲載を目指す。</p> <p>③ 総務課と相談し、保護者・卒業生への情報発信を頻繁に行う。</p> <p>3) 学校評価を行うことで学校の現状や課題について情報を共有化し、教育活動の活性化につなげる。</p> <p>4) ① 役員会の開催については、文書及びホームページで案内する。</p> <p>② ハガキ、新聞、ホームページで案内し、広報に努める。また、電話などの問い合わせに丁寧に対応する。</p>	<p>② 部活動等の試合・大会報告などをできるだけ迅速に掲載できるようにした。</p> <p>③ P T A へのお知らせも必要なものにおいては、PDFファイル形式にし、更新した。</p> <p>3) 教職員による学校評価推進委員会を4回実施し、また、3月17日には学校評議員を招き学校関係者評価を実施する。</p> <p>4) ① P T A 役員会は予定通り実施。勤務の都合で支部によっては毎回出席できないこともあった。</p> <p>② 予定通り8月に牛岐同窓会総会を開催した。参加者は50名だった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>1) ① 今年度も在籍生徒を主体的に活用することができ、参加者にも好評であった。次年度もなお一層、魅力的な行事になるよう内容面においても改善していきたい。</p> <p>② 学校公開を日曜日に実施することで多くの人が参加しやすかったと思われる。次年度もなお一層、魅力的な行事になるよう内容面においても改善していきたい。</p> <p>③ 今年度は天候にも恵まれ、計画通りに実施できた。</p> <p>④ 遠方の中学校で、1回しか訪問できなかった中学校もあったが、ほぼ計画通りに訪問でき、訪問中学校出身者の進路や本校における学校生活の様子を報告することができた。</p> <p>2) ① ホームページの更新回数は200回以上であった。学校生活や行事など多くの情報を発信できた。多くの課の情報を掲載できた。</p> <p>② 定期考査を始め、部活動の活躍の様子など掲載した。また多くの課の活動の様子も掲載できた。</p> <p>③ P T A、同窓会また今年度は120周年記念式典の内容を掲載した。</p> <p>3) 学校評価推進委員会で、本年度の重点目標や評価指標を設定した。複数の課が連携し課題を共有し、目標の達成に努め、また学校評価アンケートの結果を分析し次年度への課題とした。</p> <p>4) ① 役員会開催にあたっては、文書の送付に加え、環境情報課の協力のもと、ホームページで随時案内できた。</p> <p>② 牛岐同窓会総会については、はがき、新聞広告、ホームページで案内し広報に努めたが、本年度の総会出席者は50名に止まった。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>生徒用の情報・P T A ・同窓会の情報発信は保護者や生徒の声を反映していきたい。</p> <p>学校評価アンケート(生徒・保護者・教職員対象)を実施し、全体の回収率は、92.6%であり、データ信頼度は高い。アンケート結果を真摯に受け止め分析し、次年度の取組に生かしたい。</p> <p>P T A 役員会では、積極的な意見交換ができた。ほぼ全ての支部から出席者があり、関心の高さと学校への期待が感じられる。不参加についての原因を究明し、打開策を提案したい。本年度の牛岐同窓会総会は参加者が目標人数を下回った。広報活動について検討の余地がある。</p> <p>ホームページの更新回数は目標を大きく上回ることができた。ホームページが役に立っていると答えた生徒は74%、保護者は82%であった。来年度もより役立つように務めたい。</p>	<p>○ 牛岐同窓会総会への参加者増を目指し、ホームページの充実、また広報方法について検討する。</p>
--	--	--	--	--	--